

第48回弘陵造船航空会交流会報告

(第48回総会及び第42回講演会ほか)

昭和53年卒 久保田秀夫

第48回弘陵造船航空会交流会は、平成30年5月26日(土)13:00から横浜国立大学理工学部第二食堂にて開催されました。今回の交流会運営は、事務局のご指導、ご支援の下、総会担当年次のクラス幹事である久保田秀夫(昭和53年卒)、板橋正泰(昭和63年卒)、中村卓司(昭和63年卒)、伊藤友一(平成20年卒)、小林武彦(平成20年卒)、重留蓮希(平成30年卒)及び葛巻壺成(平成30年卒)が担当致しました。

以下に同交流会の報告を致します。なお、本報告を行うにあたり、総会担当クラス幹事を代表して、交流会の準備・運営に多大なご指導とご支援をいただいた角会長、中島理事、入江理事ほかの役員・事務局の方々に心より御礼を申し上げます。

1. 開催日時 平成30年5月26日(土)13:00~17:30
2. 開催場所 横浜国立大学 理工学部第二食堂
3. 出席者 来賓及び会員 合計57名
4. 第48回総会 13:00~14:00

(1) 逝去者の報告

司会を務めた久保田の開会の辞に続き、昨年の総会以降に事務局に御連絡のあった逝去会員の方々31名のお名前等を紹介し、出席者全員で黙祷を捧げました。

(2) 角会長挨拶

議事に先立ち、角洋一会長から、会長を退任するにあたり、全学「校友会」の発足に伴う学生会員制度の定着、高齢会員の方々への会費免除規定の導入、現役世代との交流を図るための地方での同窓会活動との交流事業の提案、名簿の電子化など会長在任中の活動を振り返られた上で、2年間の任期を無事全うできたのは珠久副会長以下役員の方々、クラス幹事の支援、協力の賜物と感謝の意を表されるとともに、本交流会準備に従事した役員、担当クラス幹事の労をねぎらう御挨拶がありました。



(3) 来賓ご祝辞

来賓を代表して、横浜国立大学学長 長谷部勇一様よりご祝辞をいただきました。長谷部学長のご祝辞の概要は以下のとおりです。

- 第48回交流会の開催をお祝いする。
- この1年間、造船海洋工学に関するいくつかの国際会議に出席し、特に海上交通における環境問題への取組みの重要性を認識した。
- 昨今はお案内のように大学間の競争が国際的にも厳しくなっており、タイムズなどのランキングを評価、分析しているが、本学は、世界では801位だが日本版では昨年の33位から25位に上昇、中でも研究力では12位にランキングされている。これは工学系を中心に産学連携などを推し進めている



成果と考えているが、今後、研究力をますます強めていくためには、海外との共同研究や国際会議への参加をさらに進めていくことが重要と認識している。

- このような大学における国際交流や若手研究者の支援などを進めるために国大基金を設立し、毎年2億円を目標に寄附をお願いしているので、是非ともご理解、ご協力願いたい。
- 本日の配布資料の中のパンフレットにあるように9月29日に横国 Day を開催する。今回はクラウドファンディングで修理資金を募り大修理を行うベヒンシュタイン社製のピアノの修理後お披露目コンサートが目玉。是非ともお越し願いたい。

(4) 平成29年度事業報告及び決算報告

平成29年度事業報告について阿部理事より、決算報告について中島理事より、それぞれ説明があり、また、会計監査報告が加戸監事よりあり、平成29年度事業報告及び決算は、承認されました。

(5) 平成30年度事業計画案及び予算案

平成30年度事業計画案について入江理事より、また予算案について中島理事より、それぞれ提案が行われ、提案どおり承認されました。

(6) 平成30年度役員人事

角会長から、以下の役員人事案が提案され、承認されました。

役 職	氏名（敬称略）	横浜国立大学卒業年次等
理事・会長	珠久 正憲	昭和45年学部卒業
理事・副会長	阿部 孝三	昭和47年学部卒業
理事・教室代表	川村 恭己	教授、海洋空間のシステムデザイン教室代表
理事	入江 泰雄	昭和48年学部卒業、昭和50年修士修了
理事（新任）	佐伯愛一郎	昭和50年学部卒業
理事（新任）	小林顕太郎	昭和51年学部卒業、昭和53年修士修了、平成元年博士修了
監事	加戸 正治	昭和45年学部卒業、昭和47年修士修了
監事	田中満佐人	昭和46年学部卒業

また、これまで理事を務められていた中島清隆氏（昭和48年卒）には、事務局サポート役として総務アドバイザーへの就任が提案され、あわせて承認されました。その後、平成30年度役員に選任された方々及び退任された角会長及び中島理事にはご起立をいただき、総会出席者に改めて紹介されました。

(7) 会員名簿の電子化

会員名簿の電子化、即ちPDF化しホームページに掲載する件について、従来3年に1回冊子で配布していた会員名簿を電子化し毎年更新の上、ホームページにPDFとして掲載するとの提案（希望者には冊子を実費で配布）が中島理事から説明されました。セキュリティ対策について懸念する指摘が出席者からありましたが、冊子による配布と同程度のセキュリティは確保できること及びパスワードを複数設定するなどのセキュリティ強化を図ると煩雑になること等を考慮し提案の形としたほか、名簿に掲載する情報は各会員が指定できるようになっているとの説明があり、提案は承認されました。

(8) 大学（教室）の近況及び弘陵賞推薦報告

海外出張中の川村教室担当理事に代わり、上野教授から以下のとおり報告が行われました。

① 大学院改組について

本年4月に大学院の改組が行われ工学府が理工学府となり、学部における学科名と大学院におけ

る専攻名が統一され、理工学府の学生がすべて理工学府に進学できるようになった。また、理工学府の教育分野（ユニット）の記述に初めて航空宇宙工学が言及されることとなった。

② 教室教員について

本年3月末を以て鈴木和夫教授、荒井誠教授が定年退職し、4月より新たに海洋設計工学担当の満行泰河準教授が着任した。また、海上技術安全研究所との連携講座の湯川和浩客員准教授が退任し、中島康晴客員准教授が着任した。

③ 学生の就職状況について

学部卒業生31名のうち、21名が大学院に進学、10名が就職。大学院博士課程前期24名のうち23名が就職、後期は6名が修了、就職。就職先は大雑把に造船・海洋関係が1/3、機械系（航空、自動車など）が1/3、その他（IT、建設、官公庁など）1/3という状況。

④ 弘陵賞について

2月8・9日に卒業研究審査会が行われ、「ホバリングを含む小型VTOL機の誘導制御に関する研究」（葛巻成成＜指導教官・樋口丈浩＞）が弘陵賞を受賞した。

⑤ 国際交流

上海交通大学と横浜国立大学との間で学生の相互交流事業が行われている。平成29年度は7月23日～8月6日に行われた2週間派遣プログラムに13名、10月からの3カ月派遣プログラムに2名、それぞれ本学学生が派遣された。なお、本件については、弘陵造船航空会から海外渡航助成を行っており、上野教授から感謝の意が述べられた。

⑥ 高校生向け公開講座

昨年で11回目となる高校生向けの公開講座を7月17日に開催、その後、8月26日に水槽を使用して「ひれ推進コンテスト」を実施した。21チームが参加した。

(9) 会報第58号目次案

会報第58号目次案について、阿部理事から説明がありました。

(10) 会費に関する内規変更

平成29年度第1回役員会（7月28日）において承認された会費に関する内規変更（入学時の前払い会費を卒業後10年間相当分から卒業後12年間の割引会費相当分に変更）について中島理事から説明がありました。

以上を以て弘陵造船航空会第48回総会は閉会しました。

5. 講演会 14:15～15:10

第42回講演会は、入江理事による講演者紹介から始まりました。講演者は一般財団法人日本海事協会事業開発本部事業戦略室長兼認証第2部長の平田純一氏（昭和60年卒）で「シップリサイクル条約とわが国の取組み」と題し、シップリサイクル条約制定の背景、条約に関する最近の動向、我が国における取組み（国土交通省、日本海事協会の取組みなど）、シップリサイクルヤードの状況（過去・現在）など、ビデオを交え、非常に興味深い講演をしていただきました。



6. イベント 15:20～15:50

講演会后、イベントとして、水槽見学及びギター演奏が同時並行で行われました。水槽見学では、研究室の学生が施設の案内を行いました。また、ギター演奏では、小嶋良一氏（昭和47年卒）及び中島清隆氏（挿話48年卒）により、演奏が行われました。お二人の二重奏で2曲、小嶋氏の独奏で6曲が披露されました。ギターで聞きなれた曲からビートルズナンバーの編曲まで幅広い演奏を参加者一同楽しませていただきました。



7. 懇親会 16:00～17:30

懇親会は、食堂ホールで、珠久新会長の会長としての抱負を交えた挨拶で始まりました。引き続き、御来賓を代表して名教自然会会長の井上誠一様の御挨拶を頂戴した後、本年3月末を以て本学教授を定年退職された荒井誠様の御発声で乾杯しました。懇親会では旧知の方々との懇談や世代を超えた同窓会ならではの交流など、学生歌の題名を冠した日本酒「みはるかす」などの飲み物や料理を賞味しながら大いに盛り上がりました。また、本年卒業生会員を代表して、重留蓮希氏及び葛巻竜成氏が挨拶をされ、継続的に若い世代が入会していくことにより会がますます活性化する好循環を感じました。

最後に阿部新副会長から学生歌「みはるかす」のいわれなどの説明があった後、同氏の指揮により参加者全員で「みはるかす」を合唱、角前会長の一丁締めによる中締めにて懇親会はお開きとなりました。



